

# 2026年3月期 中間期 決算短信補足資料

(注) 2025年3月期第3四半期において、持分法適用会社における企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前中間期との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

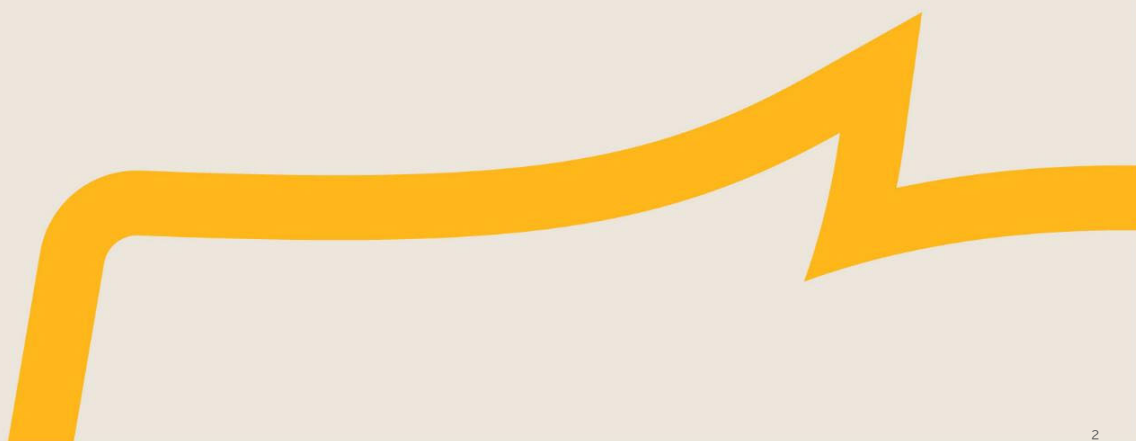


2025/11/6

株式会社ニッスイ

© Nissui All Rights Reserved.

## 2026年3月期 中間期決算概況



## 2026年3月期中間期 サマリー

養殖や北米水産加工の改善に加え、国内チルドが好調を継続し、各段階利益は10%以上の増益となった。中間配当は計画通り2円増配の14円。

	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比 増減	増減率(%)
売上高	4,406 億円	4,529 億円	122 億円	2.8
営業利益	172 億円	197 億円	25 億円	14.6
経常利益	190 億円	212 億円	21 億円	11.2
中間 純利益	125 億円	142 億円	17 億円	13.7

### <前期数値の遡及修正について>

持分法適用会社による買収に伴う負ののれん発生益の確定に伴い、前期の数値について遡及修正している。

	2025年3月期中間期		
	遡及前	遡及後	増減
売上高	4,406 億円	4,406 億円	0 億円
営業利益	172 億円	172 億円	0 億円
経常利益	169 億円	190 億円	21 億円
中間 純利益	104 億円	125 億円	20 億円

まず最初に、全体のサマリーです。

売上高は増収、各段階の利益は10%以上の増益となりました。

主な要因は、日本国内でチルド事業が好調であり、我々の中心的事業の養殖事業も順調に推移しました。また、海外の食品事業も順調に推移し、かつ、苦労していた北米の水産加工事業も改善に向かったことです。

## 2026年3月期中間期 セグメント別概況

売上高はコンビニエンスストア向け販売が好調で増収。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>4,406</b>	<b>4,529</b>	<b>122</b>	<b>2.8</b>
水産事業	1,755	1,788	32	1.8
食品事業	2,398	2,517	119	5.0
ファインケミカル事業	72	71	▲1	▲2.6
物流事業	82	83	1	1.2
その他	96	68	▲28	▲28.9
<b>営業利益</b>	<b>172</b>	<b>197</b>	<b>25</b>	<b>14.6</b>
水産事業	35	60	25	73.0
食品事業	163	168	5	3.1
ファインケミカル事業	1	1	0	65.4
物流事業	13	12	▲0	▲6.5
その他	6	3	▲2	▲44.7
全社経費	▲46	▲48	▲2	5.7
<b>経常利益</b>	<b>190</b>	<b>212</b>	<b>21</b>	<b>11.2</b>
親会社株主に帰属する中間純利益	<b>125</b>	<b>142</b>	<b>17</b>	<b>13.7</b>

© Nissui All Rights Reserved.

4

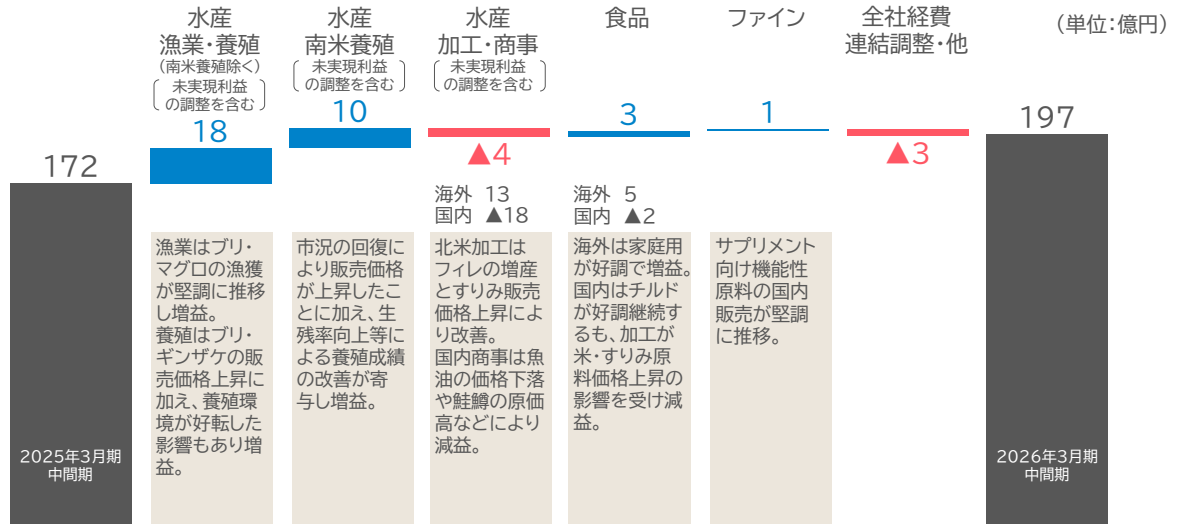
セグメント別に説明いたします。

水産、食品事業ともに増収になっております。

主な要因は、食品事業での前年同期比5%の上昇で、コンビニエンスストアによる販促を含めた好調な売上に支えられ、当社のチルド事業の売上が増加したことによるものです。

2026年3月期中間期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

水産事業は養殖の改善により大きく増益。一方、加工商事は北米の改善が進むが、国内が苦戦。食品事業は国内加工が米価で苦戦も、チルドと海外がカバーし増益。



© Nissui All Rights Reserved.

5

前年、172億円だった営業利益が197億円となり、約25億円の増益となっています。国内外の漁業・養殖部門での増益が大きく影響しています。

加えて水産加工・商事と食品において、海外は非常に順調に推移した反面、国内では苦戦が強いられました。そのうち、国内食品事業では、チルド事業は順調だった一方で、食品加工事業は苦戦しました。

水産加工・商事と食品は、全体では前年とほぼ同じような利益水準となり、結果として25億円の増益につながりました。

2026年3月期中間期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本に加え工場投資により総資産が増加。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減 <b>流動資産</b> 3,444 (+118)		<b>流動負債</b> 2,328 (+67)
現金及び預金 197 (+49)	支払手形及び買掛金 569 (+5)	短期借入金 1,218 (+77) 未払費用 274 (▲17)
受取手形及び売掛金 1,102 (+28)	<b>固定負債</b> 1,404 (+176)	
棚卸資産(在庫) 1,983 (+33)	長期借入金 1,128 (+170)	
<b>固定資産</b> 3,126 (+102)	<b>純資産</b> 2,837 (▲22)	自己資本 2,742 (▲27)
有形固定資産 1,883 (+74)	自己資本比率 '25/3 43.6% ⇒ '25/9 41.7%	
無形固定資産 158 (▲11)		
投資その他の資産 1,083 (+40)		
<b>総資産</b> 6,570 (+221)		

続きまして、連結の貸借対照表です。

総資産は、前期末比約220億円増加し、6,570億円となっております。

主な要因は、運転資本が増加した点と、食品加工事業を中心に投資の支払を行っており有形固定資産が増えた点です。これらの要素によって総資産が増加し、また借入金の増加にも繋がっています。

## 2026年3月期中間期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

営業CFは改善するも設備支払いが増加し、フリーキャッシュフローが約90億円マイナス。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減
税金等調整前中間純利益	189	210	21
減価償却費(のれん償却含む)	123	129	5
運転資本	▲70	▲112	▲42
その他(法人税等の支払額、等)	▲108	▲62	46
<b>営業CF</b>	<b>134</b>	<b>165</b>	<b>31</b>
設備投資額(固定資産取得額)	▲146	▲248	▲102
その他	▲16	▲7	8
<b>投資CF</b>	<b>▲163</b>	<b>▲256</b>	<b>▲93</b>
借入金の増減額	78	268	190
その他	▲54	▲123	▲69
<b>財務CF</b>	<b>23</b>	<b>144</b>	<b>120</b>
現金期末残高	200	238	

© Nissui All Rights Reserved.

7

続きまして、キャッシュフローについてです。

まず、営業キャッシュフローは、31億円の増加となっています。

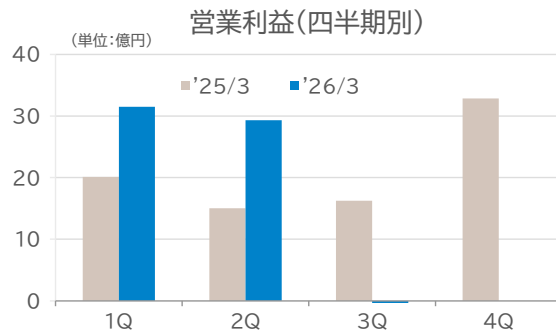
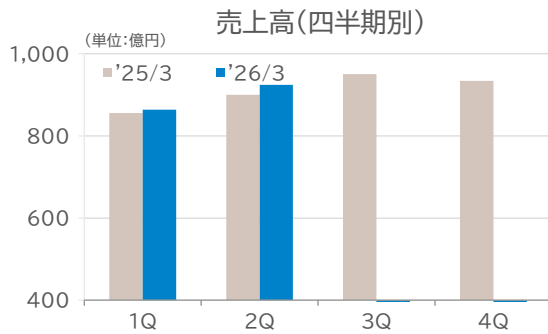
投資キャッシュフローは、先ほども触れましたが、設備投資の部分が若干膨らみました。

最終的には、フリーキャッシュフローは約90億円のマイナスになっています。

2026年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

養殖が大きく改善し、国内商事の苦戦をカバー。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,755	1,788	32	1.8
営業利益	35	60	25	73.0



© Nissui All Rights Reserved.

8

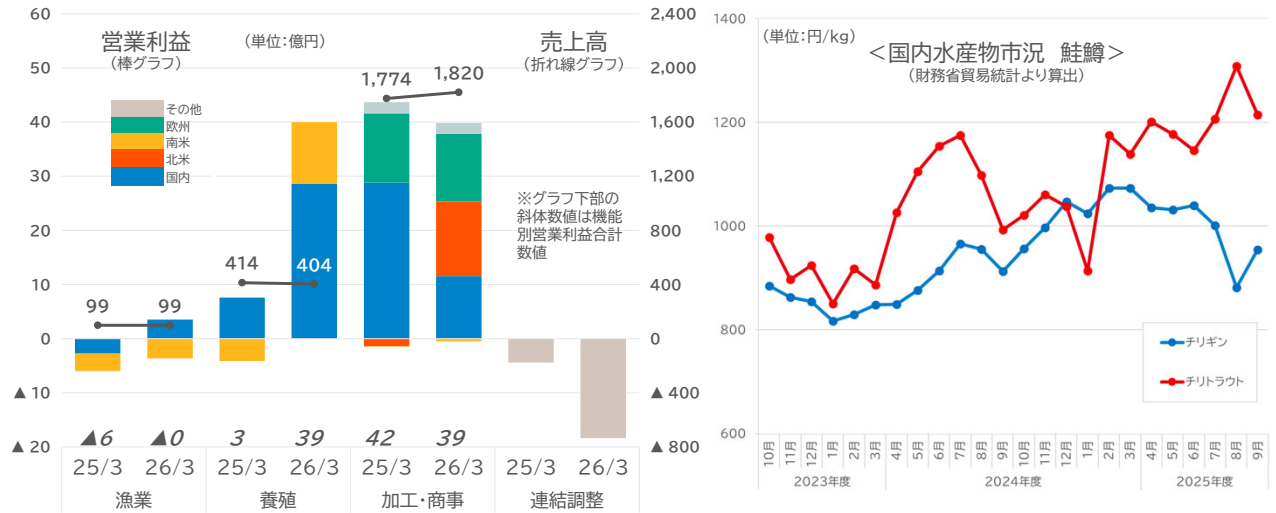
ここからセグメント別にご説明いたします。

まず水産事業ですが、増収増益となりました。

養殖事業が大きく改善して牽引したというのが大きな要素になりますが、詳細は次のページで説明いたします。

2026年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

養殖は販売価格が上昇したことに加え、養殖成績が改善したこともあり大幅増益。  
北米は加工の改善と商事の好調が寄与し、国内商事の苦戦を補った。



漁業は、主に国内漁業でブリ・マグロの漁獲が比較的好調でした。

養殖は、我々の主要事業であるサーモンについて、マーケット価格の支えに加え、養殖成績の向上などにより生産性を改善できました。ブリにおいても市場価格の上昇に加え、高水温にも耐えられる仕組みの技術開発を含め生産性が向上し、前年比で改善することができました。

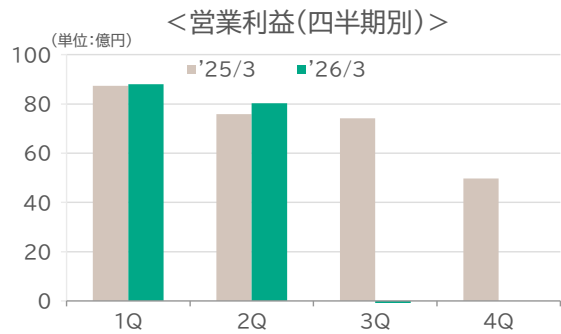
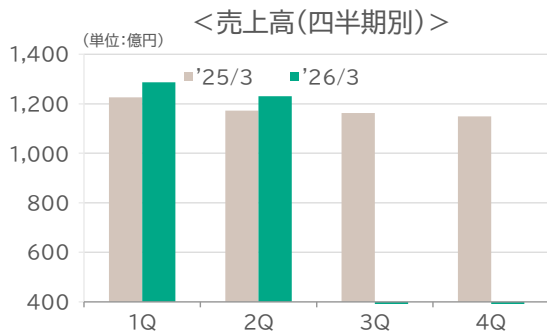
一方、加工・商事部門は若干苦勞しました。特に日本国内では魚油の市況低迷や、サーモンの市況の影響がありました。サーモンの市況は、養殖の部分では利益が出ている反面、トレーディングの部分では若干コスト高となり苦戦を強いられました。

北米は、商事事業が順調に推移したことに加え、水産加工事業についても、収益面での改善が少しずつ出来てきています。

2026年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

海外家庭用が堅調なうえCVSの販売促進効果もあり、国内の原料価格上昇の影響を吸収。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,398	2,517	119	5.0
営業利益	163	168	5	3.1



© Nissui All Rights Reserved.

10

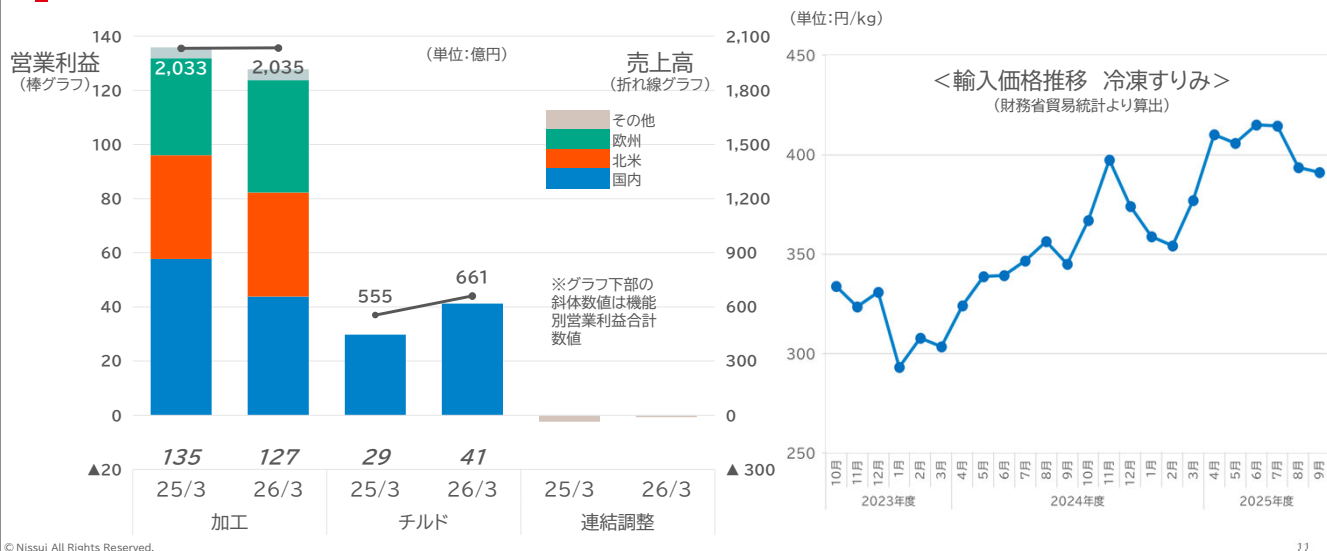
次に食品事業です。

増収増益となり、海外の家庭用と、国内のチルド事業が大きく増収増益に寄与しました。

次のページで営業利益について説明します。

2026年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

海外は、欧州での販売エリア拡大や、白身魚原料のマネジメントが奏功し増益。  
国内は、チルドは好調に推移したものの、米・すりみ原料価格上昇の影響をカバーしきれず。



営業利益は、欧米の食品加工事業が堅調に推移しました。

欧州では販売エリアの拡大や、白身魚原材料の調達をうまくできていた点も寄与して増益につながっています。

北米では、外食消費が停滞している部分もあり、家庭用は良かったものの業務用は若干苦勞しました。

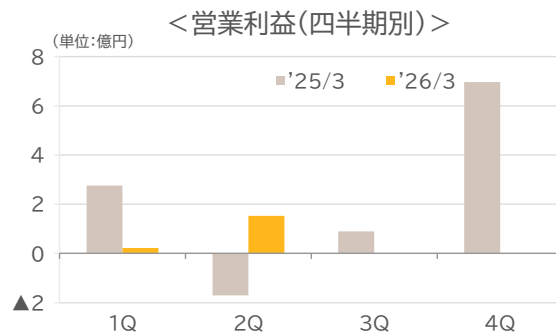
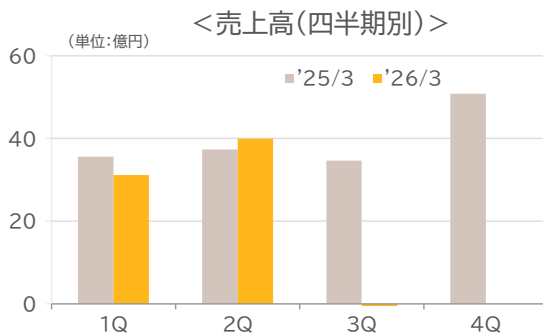
日本国内では、原材料のすりみ価格が上がっており、また米の価格が高止まりしている状況から利益が圧迫されています。価格改定を今年の9月にしていますので、下期以降はその部分を吸収していきたいと考えています。

チルド事業については好調な状態で推移しました。

2026年3月期中間期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

サプリメント向け機能性原料の国内販売が堅調に推移。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	72	71	▲1	▲2.6
営業利益	1	1	0	65.4



© Nissui All Rights Reserved.

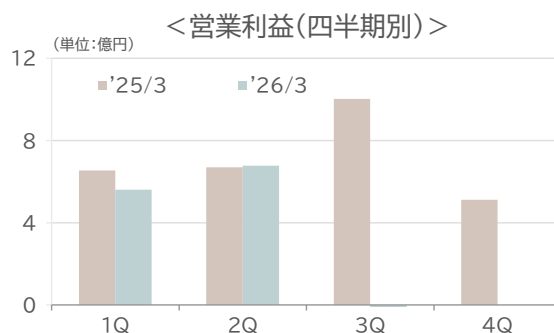
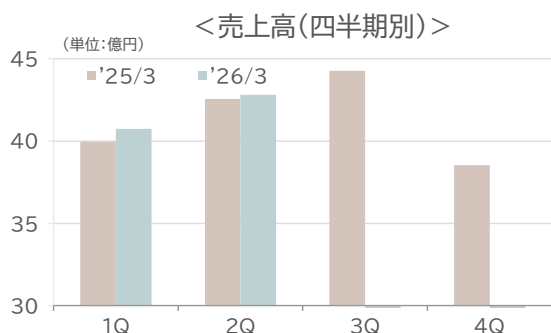
12

次にファインケミカル事業になります。サプリメント向けの機能性原料の日本国内での販売が堅調に推移した結果、ほぼ前年比をキープすることができました。  
 ファインケミカル事業については下期偏重の計画を立てています。医薬品原料については特に第4四半期の比率が高く、この部分の収益が多い予想になっています。

2026年3月期中間期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

物流の2024年問題を背景とした人員増に伴う人件費の増加や燃料費の上昇により減益。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	82	83	1	1.2
営業利益	13	12	▲0	▲6.5



© Nissui All Rights Reserved.

13

最後に物流事業になります。

基本的に前年と同じような売上推移となりました。

利益面は、2024年問題などによる人件費、動燃費の増加や、インフラコストの増加により利益面が圧迫されました。これに対する施策は今後も取っていく必要があると認識しています。

今後の見通し・取り組み



## 2026年3月期 計画(再掲) セグメント別概況

上期は海外事業の成長とチルドの拡大に加え、養殖事業の高度化、不採算事業の改善が順調に進み、計画を上回るペース。

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2026年3月期 計画 (5/14公表)	進捗率 (%)
売上高	4,529	9,000	50.3
水産事業	1,788	3,568	50.1
食品事業	2,517	4,901	51.4
ファインケミカル事業	71	183	38.8
物流事業	83	167	50.0
その他	68	181	38.0
営業利益	197	345	57.4
水産事業	60	127	47.7
食品事業	168	278	60.4
ファインケミカル事業	1	14	12.5
物流事業	12	25	48.6
その他	3	9	36.4
全社経費	▲48	▲110	44.3

下期以降は、中計最終年(2027年度)の飛躍に向け、養殖拡大や新增設する工場のフル稼働に向けた準備、医薬品原料の販売実現等を進めるが、各国の経済対策に加え、消費者動向や水産物・米の市況等、事業環境は不透明。

© Nissui All Rights Reserved.

15

続きまして今後の見通しについてです。

こちらは5月に発表した2026年3月期計画に対する第2四半期終了時点の進捗率です。

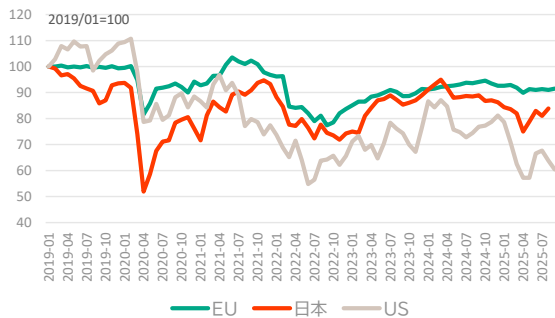
売上、利益ともに50%以上で進捗しており、ある程度順調に推移しています。その要因については、繰り返しになりますが、チルド事業の拡大と養殖事業、また不採算であった北米の加工事業等の改善が進んでいるという点です。

そのようななか、2027年度のRecipe2 (中期経営計画)の最終年度に向け、加工機能の増強や養殖事業の更なる高度化など、飛躍のために色々な準備をしています。しかし、米の価格をはじめとするコスト面、消費動向、年末需要の動向次第で様々な可能性があり、現状では分析が難しい部分もあることから、通期予想は据え置きとしています。

各国の消費者動向や市況を検証し適切に対応する。

▶ トランプ政権発足以降、通商政策等の影響で各国の消費者動向に変調が見られる。

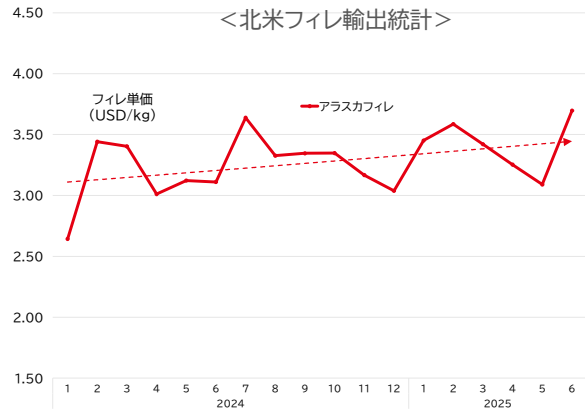
<各国の消費者動向調査>



出典：日本/内閣府「消費動向調査(消費者態度指数)」  
 US /Consumer Sentiment(UMCSENT)  
 EU / Consumers confidence indicator and survey results(Eurostat)  
 2019年1月=100

▶ 白身魚市況は上昇傾向で、食品原料への影響が懸念され、状況を注視。

<北米フィレ輸出統計>



出典：NOAA(アメリカ海洋大気庁)

不確実な部分の代表的な部分は、まず、消費者動向が不透明な部分です。例えばトランプ政権発足以降、アメリカのマーケットは急激な消費の落ち込み等もあり不安があります。また、白身魚の市況と米の市況は上昇が続いており、このあたりを含めて年末までの分析をきっちりしたうえで、1月以降に年間見通しについて再度検討するかもしれません。

養殖事業の更なる拡大のため、養殖成績の改善と生産量拡大に注力。

▶ 種苗生産能力の増強・技術革新による  
養殖成績改善

- (国内ギンザケ・南米サーモン)生産能力の拡大に加え、成長促進・高温耐性化、魚病リスク低減などの種苗強化により、養殖成績の改善を図り、生産性向上を表現する。



種苗生産能力の拡大(左:岩手県、右:チリ)

- (ブリ)海中給餌の取り組みを検証。沈下状態の生簀に船上から給餌することで、表層水温が高くてもブリにストレスをかけることなく給餌可能となり、健康状態の向上にも期待。

▶ 養殖場の運用最適化による事業規模の  
増大

- 国内ギンザケは、養殖エリアの分散による事業拡大とリスクハッジを推進。南米サーモンは養殖場の運用最適化を図り、水揚げ数量拡大。

(国内ギンザケ)  
岩手県を中心に、  
2030年の1万トン体制  
に向け拠点を拡大



(南米サーモン)  
2030年の5万トン体制  
に向けて準備



大槌(2022年4月から事業化)  
陸前高田(2025年11月から事業化)  
大船渡(2025年11月から試験養殖開始)

ここから事業別の取り組みをご説明します。

養殖事業は、生産量も伸ばすと同時に価値を最大化することが我々の仕事だと考えています。

まず左側については、養殖の肝でもある種苗の生産能力や、養殖の生産性を上げる技術の革新を進めています。日本では岩手県、またチリでも淡水養殖場により、生産性の高い種苗の生産設備を開発しているところです。

ブリについては、ストレスをかけず成長しやすいよう、生簀を海中に沈めながら良い環境で育成し、魚病等の被害を抑える養殖方法の開発を進めています。

右側ですが、サーモンはこれからも世界で伸びるであろう魚種であり、消費者が一番好きな魚でもあります。この部分を強化するという意味で、南米と、岩手県を中心とした日本国内での強化を今後図っていく考えです。

人にも地球にもやさしい養殖事業を通じ、企業価値向上につなげる。

▶ 地域と連携した生物多様性の持続的な保全

―「みらいの海をつくる森」(岩手県陸前高田市)での森林保全活動を開始

森・里・川・海のつながりによってもたらされる自然の恵みをより良い状態で残すため、保全活動などを通じた森づくりを行うことで、脱炭素・自然との共生実現に向けて取り組む



「みらいの海をつくる森」  
(岩手県陸前高田市)



2025年11月2日に  
行われた森開き式

▶ 気候変動への対応と海洋環境の保全

―黒瀬水産にて関係機関※とともに、「水素燃料電池を搭載した養殖給餌漁船の開発と実証」の実証実験を開始

養殖業の成長産業化と脱炭素化に向け、養殖業に従事する漁船の動力源を化石燃料から水素などの非化石燃料へ転換するための課題抽出・整理



※関係機関：一般社団法人海洋水産システム協会 および  
国立研究開発法人水産研究・教育機構

養殖事業でのサステナブルな取り組みについてです。

岩手県陸前高田市でサーモンの養殖を開始していますが、陸前高田市で「みらいの海をつくる森」という森林保全活動が開始され、数社共同で取り組んでいます。他にも鳥取県の境港市でも同様の活動を実施していますが、このような活動を通じて少しでも地球にやさしいサステナブルな事業に取り組んでいきたいと考えています。

次に、関係機関と連携し、船から出るCO<sub>2</sub>の排出削減に向け水素燃料電池を活用した漁船を試験導入し、その効果を検証するなど脱炭素社会に向けた新技術の取り組みを進めています。

今後も同様の取り組みがあれば参加していきたいと考えています。

引き続き収益構造の見直しを進める。

▶ (南米漁業)操業体制の見直し

ー1隻減船による操業スタート

- ・すりみ生産縮小・フィレ生産増  
加で、原魚価値を向上させる。
- ・継続して漁船売却に取り組み  
中。



▶ (北米加工)原魚価値の最大化

ーフィレ生産比率の向上による収益改善

- ・すりみと比較して価格が高値  
安定しているフィレの生産比率  
を高水準で維持する。

ー漁船との協働体制強化

- ・漁船と陸上工場の協働により、  
適切なタイミングでの原料調達を  
実現し、スケソウダラ原料の品質安定による製品価値ア  
ップに貢献。



次に、我々が苦戦している2つの事業についての状況です。

南米の漁業は、今年より2隻から1隻体制にして運営しています。漁獲するものも、なるべく価値の高いものを生産するよう取り組んでいます。

また、余剰となっている船の売却は、遅れてしまっていますが、今後も継続課題として取り組んで早期に解決し、黒字転換するよう努力していきたいと考えています。

北米の加工については漁船の方々の協力もあり、工場の稼働に非常にいいタイミングで、いい状態の魚を持ってきて頂いているおかげで、品質が安定し、すりみよりも価値の高いフィレの生産比率を上げることができています。それによって上期の段階では前年比での増益が実現できています。

## 今後の見通し・取り組み：食品事業(海外)

需要に対応するための生産能力増強と効率化を進め、成長を加速する。

### <北米>



- 2025年9月より生産開始。2026年8月よりフル稼働を計画。北米全体での生産能力が増加し、拡大を続ける消費者需要に対応。
- 物流パートナーであるU.S.コールドストレージ社と提携、冷蔵倉庫などの設備面やロジスティクス面の協力を得ることで、サプライチェーンのフレキシビリティを高める。

### <欧州>



- 建屋増設は完成。配送エリアは稼働開始。生産エリアは今後2ラインを追加し、2026年4月末からの本格稼働を目指す。
- 生産能力拡張や箱詰めラインの自動化、配送の効率化で収益力を強化。

海外の食品については、需要が欧米で伸びています。その需要に応えるべく、北米では今年の9月にゴートンズの新工場をインディアナ州に開設しています。ここでは我々の従来のパートナー企業の物流会社とも協力し、ロジスティックの効率的活用を含め、新たな一大拠点として今後運営していく予定です。

欧州では、シテマリンの増設について、ロジスティック、ピッキングを行う部分は稼働を開始しました。同じ敷地にあと2台生産ラインを増やし、2026年に完成予定で、フル稼働後は欧州についても増力が見込めることとなります。

今後の見通し・取り組み： 食品事業(日本)

ニーズに応えた商品の拡充に加え、白身魚の強みをお客様の価値に変えている姿勢を、企業CMやちくわ等の商品を通じて訴求し、ブランド価値を向上させる。

▶ 個食・簡便・健康など消費者ニーズに対応した差別化商品の展開

・独自技術やノウハウを融合した優位性のある商品を展開。



レンジ調理で簡単に喫食できるワンプレート冷凍弁当



レンジで時短・簡便に調理できる冷凍惣菜

▶ CMや白身魚商品を通じたブランド価値向上

・「人々により良い食を届けたい」という想いや、卵フリーをテーマにした企業CMを展開。店頭の商品との連動により、ブランド価値向上を図る。

・食の体験を提供するイベントを通じ、練り製品と接点が少ない層へのアプローチを強化。



© Nissui All Rights Reserved.

21

国内の食品事業についてです。

様々な消費者のニーズに応えられる、差別化された商品をスムーズに開発して、なおかつニッスイのブランド価値向上につなげるような行動を進めてまいります。

特に、個食・簡便といった意味で「まんぞくプレート」というワンプレートの冷凍商品がご好評いただき、前年比170%以上の販売実績となりました。また健康の面でも、手軽にレンジで美味しい煮魚を食べられるような商品の開発も進めています。

また、ブランド訴求のテレビCMを放映し、卵フリーで健康に良い商品をつくる会社であることをアピールしながらブランド価値の向上を図っています。また、11月7日まで原宿で、ちくわやフィッシュソーセージを原材料にしたチュロスを提供し、新しい食の提案とともに、「安全でおいしい」というニッスイのブランドイメージにつながるイベントを実施しました。1週間で約5,700名に試食いただき、ブランド価値向上につながったと認識しています。

## 今後の見通し・取り組み：ファインケミカル事業

国内通販では、従来より手軽にEPA・DHAが摂れる商品を新たに展開。物販では、高度精製技術に加え、脱臭・乳化・酸化防止などの技術を活かした商品を国内外で拡大。

### ▶ 通販(国内)

- EPA・DHAの1日摂取目安量の1/3を手軽に摂取し、健康維持が期待できる商品を展開。



(カプセル)



(ドリンク)

### ▶ 物販(国内外)

- (日本)国内量販店に向けた速筋タンパク・グミ商品の販売を強化。




- (海外)アジア各国において、FDAへの登録などを開始。年度内のグローバル販売に向けた準備を進める。



ファインケミカル事業について、医薬品原料の販売拡大は重要なテーマですが、それに加え、国内の通販事業では、手軽に1日の必要量の1/3のEPA・DHAを摂取できる「魚活専科」という新しいブランドにより販売を強化していきます。

また物販では、コンビニエンスストアや量販店において、我々の脱臭や乳化、酸化防止などの製造技術を様々な形で活用した商品を販売強化していきます。

併せてアジアでも段取りが進んでおり、下期より少しずつ実現化するよう取り組んでいます。



バリューチェーン強靱化を通じ、  
長期ビジョン  
「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(GOOD FOODS 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。

我々は中期経営計画で「バリューチェーンの強靱化」を徹底的に追及しようと掲げています。

自然の恵みである資源を大切に、そのアクセス力を強め最大価値を生む、それがニッスイの使命だと考えており、今後もそれに向かって邁進してまいります。

株主、投資家の皆様の信頼、ご期待に応えられる企業であり続けたいと考えておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



**まだ見ぬ、食の力を。**

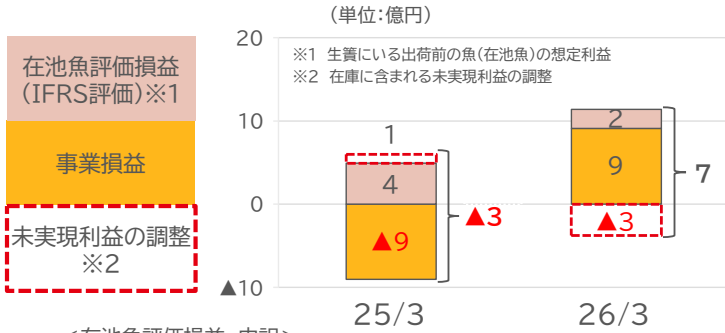
株式会社ニッスイ  
証券コード：1332  
お問合せ先：経営企画IR部IR課  
03-6206-7037  
<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

参考資料



2026年3月期中間期 南米鮭鱒養殖について

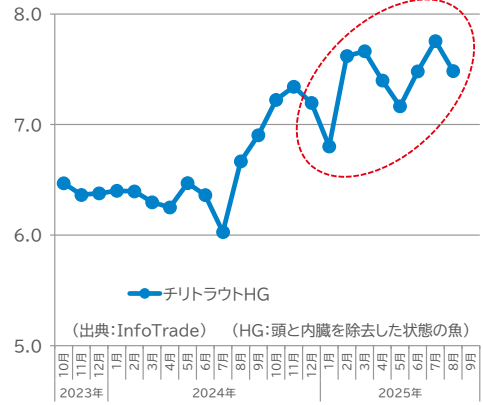
在池魚評価損益はほぼ影響なし。



<在池魚評価損益 内訳>

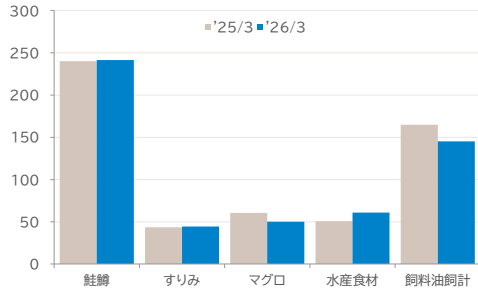
(単位:億円)	25/3 2Q	26/3 2Q
期首戻入額	22	▲3
期末評価損益	▲17	6
在池魚評価損益	4	2

<チリ産トラウトHG相場推移>  
(単位:USD/kg)

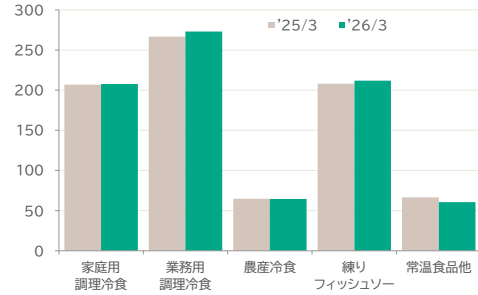


## 2026年3月期中間期 参考資料

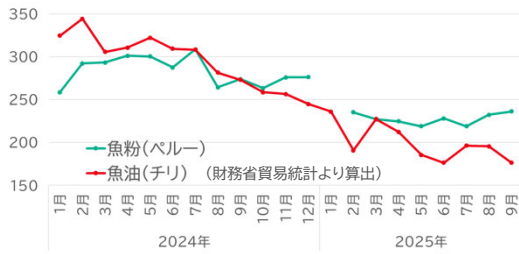
水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



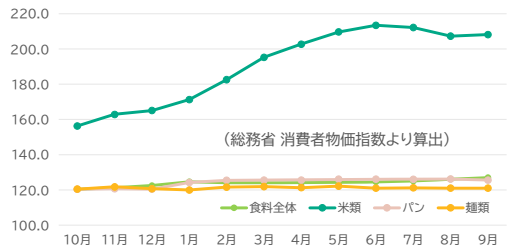
食品個別 カテゴリ別売上高 (単位:億円)



輸入価格推移 魚油・魚粉 (単位:円/kg)



食料価格の推移(米類・パン・麺類) (指数:2020年=100)



## 2026年3月期中間期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減	主な増減要因
売上高	4,406	4,529	122	
売上総利益	707	744	36	
販売費・一般管理費	534	546	11	
営業利益	172	197	25	
営業外収益	36	29	▲6	持分法による投資利益▲13、助成金収入+6
営業外費用	18	15	▲2	
経常利益	190	212	21	
特別利益	4	4	▲0	
特別損失	5	5	▲0	
税金等調整前中間純利益	189	210	21	
法人税等	53	60	6	
法人税等調整額	0	▲4	▲4	
中間純利益	135	154	19	
非支配株主に帰属する 中間純利益	9	11	1	
親会社株主に帰属する 中間純利益	125	142	17	

## 2026年3月期中間期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	771	1,187	813	1,202	42	15	65	▲49
EUR(百万ユーロ)	220	367	234	379	13	12	22	▲9
DKK(百万クローネ)	1,667	372	1,780	387	113	14	24	▲10
その他通貨	—	195	—	215	—	19	19	0
計		2,123		2,185		61	131	▲69

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第2四半期の平均

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	変動率
米ドル(USD)	158.24 円	143.75 円	▲9.2%
ユーロ(EUR)	170.08 円	165.13 円	▲2.9%
デンマーククローネ (DKK)	22.80 円	22.13 円	▲3.0%

## 2026年3月期中間期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,223 (▲14)	428 (51)	186 (▲21)	450 (21)	36 (0)	2,325 (36)	▲536 (▲3)	1,788 (33)
	1,237	377	207	429	36	2,289	▲533	1,755
食品事業	1,614 (96)	587 (▲13)		436 (18)	59 (8)	2,697 (109)	▲179 (11)	2,517 (119)
	1,518	600		418	51	2,588	▲190	2,398
ファイン 事業	84 (▲3)					84 (▲3)	▲13 (1)	71 (▲1)
	87					87	▲14	72
物流事業	166 (6)					166 (6)	▲82 (▲5)	83 (1)
	160					160	▲77	82
その他 事業	95 (▲18)				1 (1)	96 (▲18)	▲28 (▲10)	68 (▲28)
	113				0	114	▲18	96
仮計	3,184 (68)	1,015 (37)	186 (▲21)	886 (38)	97 (9)	5,369 (129)		
	3,116	978	207	848	88	5,240		
連結調整	▲509 (▲7)	▲132 (▲15)	▲127 (17)	▲7 (1)	▲63 (▲2)		▲840 (▲7)	
	▲502	▲117	▲144	▲8	▲61		▲833	
連結計	2,674 (60)	882 (21)	58 (▲5)	878 (39)	34 (7)			4,529 (123)
	2,614	861	63	839	27			4,406

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。  
 ※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

## 2026年3月期中間期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	43 (10)	13 (15)	7 (14)	12 (▲0)	2 (0)		79 (39)	▲18 (▲13)	60 (25)	3.4 (1.4)
	33	▲1	▲7	12	1		39	▲4	35	2.0
食品事業	85 (▲2)	38 (0)		41 (5)	4 (0)		169 (3)	▲0 (1)	168 (5)	6.7 (▲0.1)
	87	38		35	4		165	▲2	163	6.8
ファイン 事業	2 (1)						2 (1)	▲0 (▲0)	1 (0)	2.4 (1.0)
	1						1	▲0	1	1.4
物流事業	12 (▲0)						12 (▲0)	0 (0)	12 (▲0)	14.8 (▲1.2)
	13						13	0	13	16.0
その他 事業	3 (▲1)				0 (0)		3 (▲1)	▲0 (▲1)	3 (▲2)	5.0 (▲1.5)
	4				0		4	1	6	6.5
全社経費						▲49 (▲2)	▲49 (▲2)	0 (▲0)	▲48 (▲2)	
						▲46	▲46	0	▲46	
仮計	146 (6)	52 (15)	7 (14)	54 (5)	6 (0)	▲49 (▲2)	217 (39)			
	140	36	▲7	48	6	▲46	177			
連結調整	▲8 (▲9)	▲4 (▲1)	▲3 (▲4)	▲2 (1)	▲0 (0)	0 (0)		▲19 (▲14)		
	0	▲2	1	▲3	▲0	0		▲5		
連結計	138 (▲2)	47 (13)	3 (9)	51 (6)	6 (0)	▲49 (▲2)			197 (25)	4.4 (0.4)
	141	34	▲6	44	5	▲46			172	3.9

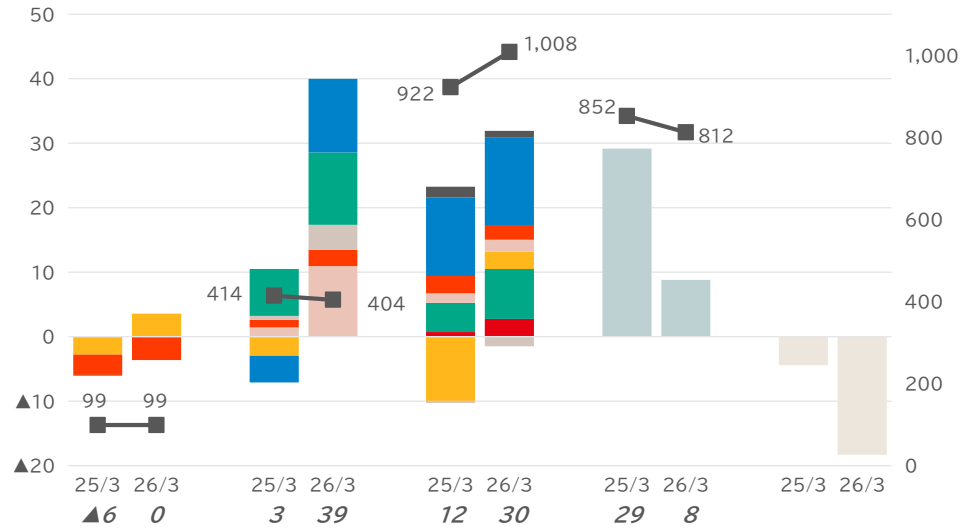
※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。  
 ※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

## 2026年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

漁業
養殖
加工・商事
ニッスイ個別
連結調整

営業利益(棒グラフ)  
 売上高(折れ線グラフ)



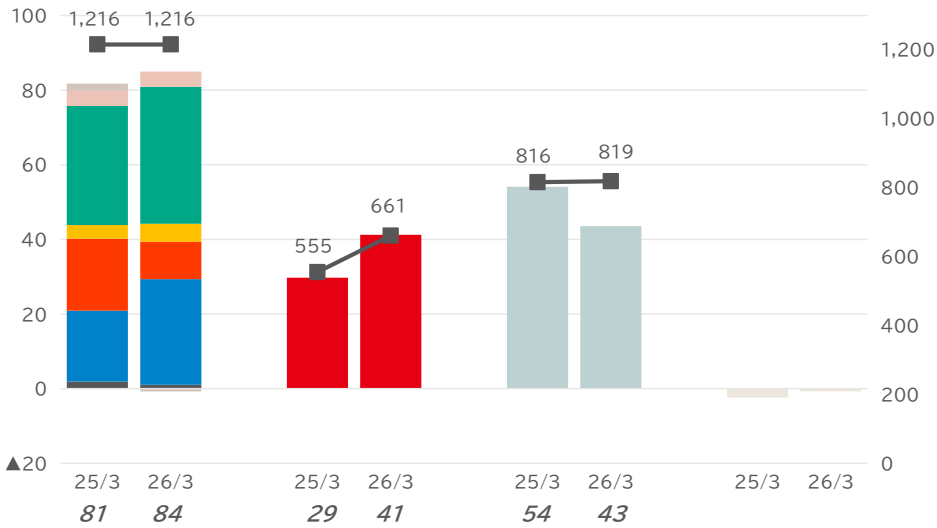
※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

## 2026年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

加工      チルド      ニッスイ個別      連結調整



営業利益(棒グラフ)  
売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、  
のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は  
機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。